国土交通省
関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau.
Press Release

令和 6 年 9 月 3 日
国土交通省関東地方整備局
横浜港湾空港技術調査事務所

第 16 回 横浜技調技術交流会の開催について

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所では、港湾空港分野の技術力をより高める取り組みとして、外部の方々から様々な新しい技術を 5 件発表いただき、参加者との意見交換を行う技術交流会を開催します。

1．日時：令和 6 年 9 月 26 日（木）14 時 00 分～17 時 00 分（受付は 13 時 30 分より）

2．開催方法：対面とオンラインのハイブリッド形式（Microsoft Teams 配信による）
*オンライン参加される方には、開催日の前日までに招待 URL をメールにてお知らせします。

3．開催場所：横浜港湾空港技術調査事務所 多目的プラザ
（神奈川県横浜市神奈川区橋本町 2－1－4）

4．プログラムおよび発表テーマ：「別紙 1」および「別紙 1-1」のとおり

5．参加費：無料

6．参加申し込み：事前申込制 ／ 令和 6 年 9 月 17 日（火）まで
「別紙 3」申込用紙に記載の上、事務局宛へメールにて送付してください。
なお、会場の都合および WEB 会議システムの都合上、参加者枠に限りがありますので、参加者は先着順（会場 30 名／オンライン 200 名を予定）とさせていただきます。

＜発表記者クラブ＞　竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・横浜海事記者クラブ・その他専門誌

＜問い合わせ先＞
関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所
電話：045－461－3893　／　メール：cyousa-y83ab@mlit.go.jp
調査課長　原田　勉・調査課　新山　真利

第16回 横浜技調技術交流会プログラム

別紙　1

日時　　令和6年9月26日（木）14：00 ～ 17:00

場所　　横浜港湾空港技術調査事務所 多目的プラザ（ダイバシティ1階交流室）およびオンライン形式（Microsoft Teams）

プログラム

No.	時　間			テーマ	発表者
	14:00	-	14:10	開会挨拶	横浜港湾空港技術調査事務所 所長　中川　大
1	14:10	-	14:40	高耐久なサスティナブルコンクリート「ｅ－ＣＯＮ®」	日本ヒューム株式会社 茅野　良太　様
2	14:40	-	15:10	骨材および固化材にリサイクル材を100%使用した安定処理路盤材	鹿島道路株式会社 好見　一馬　様
	15:10	-	15:20	**休憩（10分間）**	
3	15:20	-	15:50	衛星観測データを応用した沿岸環境デジタルツイン構築に関する研究	横浜国立大学 比嘉　紘士　准教授
4	15:50	-	16:20	衛星SARを用いたインフラメンテナンス技術の紹介	基礎地盤コンサルタンツ株式会社 吉川　猛　様
5	16:20	-	16:50	防波護岸「フレア護岸」 （NETIS　登録番号：OK-150002-VR）	ケイコン株式会社 高松　裕司　様
	16:50	-	17:00	閉会挨拶	横浜港湾空港技術調査事務所 副所長　藤井　久

第16回 横浜技調技術交流会発表テーマ一覧

別紙　1-1

番号	テーマ	概　要	発表者
1	高耐久なサスティナブルコンクリート「e－CON®」	「e-CON（イーコン）」は，結合材にセメントを使用しないセメントレスなプレキャスト製品用コンクリートです。セメントレスコンクリートであるものの，従来のセメントを使用したコンクリートと変わらない力学的特性を有し，高い耐塩害性および耐硫酸性，ならびに製品としての耐荷性能を備え，環境保全（低炭素化，資源の有効利用）も同時に実現することが可能なサスティナブルコンクリートとなっております。 【技術的特長】 (1)プレキャスト製品用コンクリートとして，従来のセメントコンクリートと変わらない性能（成形性，力学的特性，長さ変化特性）を有している。 (2)耐塩害性，耐硫酸性に優れており，過酷な環境下である飛沫帯に適用した場合，製品の高耐久化，長寿命化が可能である。 (3)「e-CON」の結合材には，主に産業副産物の高炉スラグ微粉末，フライアッシュ，シリカフュームを使用しており，環境負荷低減に有効である。	日本ヒューム株式会社 茅野　良太　様
2	骨材および固化材にリサイクル材を100%使用した安定処理路盤材	本技術の安定処理路盤材は、骨材にコンクリート再生骨材、固化材に高炉スラグ微粉末を用いた、構成するすべての材料をリサイクル材とした路盤材である。室内試験では上層路盤規格である一軸圧縮強さ2.9MPaを満足し、輪荷重走行による実路耐久性試験においても耐久性に問題ない結果が得られている。また、100%リサイクル材で構成されているため環境負荷低減にも大きく寄与できる技術である。	鹿島道路株式会社 好見　一馬　様
3	衛星観測データを応用した沿岸環境デジタルツイン構築に関する研究	第5回科学技術基本計画では、目指すべき未来社会の姿としてSociety 5.0が提唱され、デジタルツインの開発が重視されている。ヨーロッパでは既に海洋デジタルツインのフレームワーク構築に関する研究が進められているが、東京湾のような都市部に近い閉鎖性水域における沿岸環境のデジタルツインのフレームワークの検討や技術開発は近年始まったばかりである。 海洋デジタルツインの構築においては、物理空間と仮想空間の橋渡しとして、現場の実測値やリモートセンシング技術を使用し、流動・生態系モデルへのデータ同化を実行する技術開発が重要な軸になり得る。特に近年，技術の発展が著しい人工衛星データの利用が期待されるものの、沿岸環境では人工衛星データの推定値に不確実性が生じることや、また、データ同化に対する有効性も未だ不明瞭であるなど、様々な課題を抱えており、これらの課題を克服するような研究の展開が重要である。 本講演では、岸環境のデジタルツインのフレームワークを検討すると共に、特に衛星観測データの応用方法に着目して、沿岸環境デジタルツイン構築に向けた研究の展開と今後の展望を紹介する。	横浜国立大学 比嘉　紘士　准教授
4	衛星SARを用いたインフラメンテナンス技術の紹介	衛星SARを活用して港湾施設の維持管理を効率的に進める手法を紹介する。衛星SARは、対象とする港湾施設を広域に観測することが可能であり、定期的な観測データを整理することにより、目視点検では捉えることができない変状エリア（箇所）の抽出を行い、詳細点検箇所を優先的に決定することができる。	基礎地盤コンサルタンツ株式会社 吉川　猛　様
5	防波護岸「フレア護岸」 （NETIS　登録番号：OK-150002-VR） （技術認証）一般財団法人　土木研究センター（建技審証　第1207号） （技術試験など）水理模型実験（越波防止性能・反射率低減性能）	越波阻止性能に優れた上部フレア（フレア護岸の上部のみを製品化したプレキャスト大型波返し）を用い、既設護岸を改良する新しい技術です。既設護岸の上部を一部撤去して定番を構築し、上部フレアを設置することで越波対策が完了するほか、既設護岸の老朽化対策で施工される腹付コンクリート上に設置することも可能である。 　また、従来護岸の問題点でもあった景観性・前面の砂浜やリーフ等の消失に伴う環境性を改善し高い越波阻止性能及び反射率低減性能を有し、護岸天端部を有効利用出来る防波護岸です。	ケイコン株式会社 高松　裕司　様

別紙 2

●当技術交流会は、土木学会の CPD プログラムおよび（一社）全国土木施工管理技士会連合会 CPDS プログラムの認定を受けることができます。
事前に申請して頂いた方のみ単位／ユニット数をお渡し致します。

<table>
<tr><td>土木学会
継続学習（CPD）制度プログラムの留意点</td><td>一般社団法人
全国土木施工管理技士会連合会
CPDS プログラムの留意点</td></tr>
<tr><td>付与単位数：3.0 単位</td><td>付与ユニット数：3 ユニット</td></tr>
<tr><td colspan="2">会場にて参加される方は、受講後に「受講証明書」をお渡ししますので、お帰りの際に受付までお立ち寄りください。また、受け取りの際に必要な CPDS 技術者証や運転免許証などの本人確認ができるもの（顔写真付き）をご持参いただきますようお願いします。</td></tr>
<tr><td>オンラインにて参加される方は、CPD プログラムにおいて受講で得られた所見（学びや気付き）を 100 文字以上におまとめいただき、10 月 4 日（金）までに事務局宛へメールにて提出してください。
内容を確認後、受講証明書をお申込みいただいたメールアドレスへ返信いたします。</td><td>オンライン参加の方は、CPDS プログラムの認定は受けられませんのでご注意ください。
※会場参加の方は、ユニット付与可能</td></tr>
</table>

※他団体へ申請される方は他団体のルールに従っていただきます。なお、他団体のルールや運営方法については対応いたしかねます。
※CPD 記録の登録および CPDS の学習履歴申請等は各自にて行ってください。

●会場にて参加される方で、37.5°C以上の発熱のある方および体調不良の方は入場をお断りさせていただく場合がございます。感染症対策に御協力をお願いいたします。

●取材をご希望される場合は、下記内容を記述したメールを 9 月 17 日（火）17:00 までに事務局へ送付してください。（様式なし）
氏名（ふりがな）、報道機関名（所属記者クラブ）、連絡先（メールアドレス／電話番号）、参加形式（会場あるいはオンライン）
※取材の方の CPD および CPDS プログラムの単位等の付与はございませんのでご注意ください。

別紙３

第 16 回 横浜技調技術交流会 参加申込書

開催日時：令和 6 年 9 月 26 日（木）　14 時 00 分～17 時 00 分（受付は 13 時 30 分より）

開催方法：対面とオンラインのハイブリッド形式（Microsoft Teams 配信による）

オンラインで参加される方には、招待 URL を発表日の前日までにメールにてお知らせします。

申込書　：技術交流会への参加申込について、以下表へ必要事項を入力いただき、

9 月 17 日（火）までに事務局宛へメールにて送付いただきますようお願いします。

氏　名 （ふりがな）	所　属 連絡先（メールアドレス／電話番号）	参加形式	CPD 申請	CPDS 申請
例：関東　太朗 （かんとう　たろう）	会社名　所属課 〇〇@mlit.go.jp ／ 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	会場	○	○
例：港湾　花子 （こうわん　はなこ）	会社名　所属課 〇〇@mlit.go.jp ／ 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	WEB	×	×

＊参加申込書の個人情報は、交流会当日の資料準備、連絡のみの利用とし、事務局が適正に管理いたします。

＊参加者多数で定員を大きく上回った場合は、こちらよりご連絡させていただきます。

＊CPD および CPDS プログラムの留意点につきましては、「別紙 2」を参照ください。

【申込先】右記メールアドレスまで送付ください。cyousa-y83ab@mlit.go.jp

【事務局】横浜港湾空港技術調査事務所　調査課

担当：原田　勉・新山　真利／　電話：０４５－４６１－３８９３

交通のご案内および駐車場について

国土交通省　関東地方整備局　横浜港湾空港技術調査事務所
住所：〒221-0053　神奈川県横浜市神奈川区橋本町 2-1-4
電話番号：045-461-3893
メールアドレス：cyousa-y83ab@mlit.go.jp

＊JR 京浜東北線 東神奈川駅より徒歩 15 分
＊京浜急行線 京急東神奈川駅より徒歩 15 分
＊横浜駅東口バスターミナル 4 番乗り場より「48 系統 コットンハーバー経由 東神奈川駅・横浜駅行き（循環）」バスに乗車し約 15 分、「星野町公園前」または「コットンハーバー」バス停下車、徒歩約 2 分

▼注意事項▼

・事務所構内に駐車場（無料）はございますが、可能な限り公共交通機関等にてご来場いただけますようご協力をお願いいたします。
・お車でのご来場の際は、9 月 17 日（火）までに事務局宛へメールにてご連絡いただきますようお願いします。（車種、車体の色、車両ナンバーをお知らせください。／様式不問）